

新規事業評価調書

【街路事業】

都市計画道路 城東線（河間）

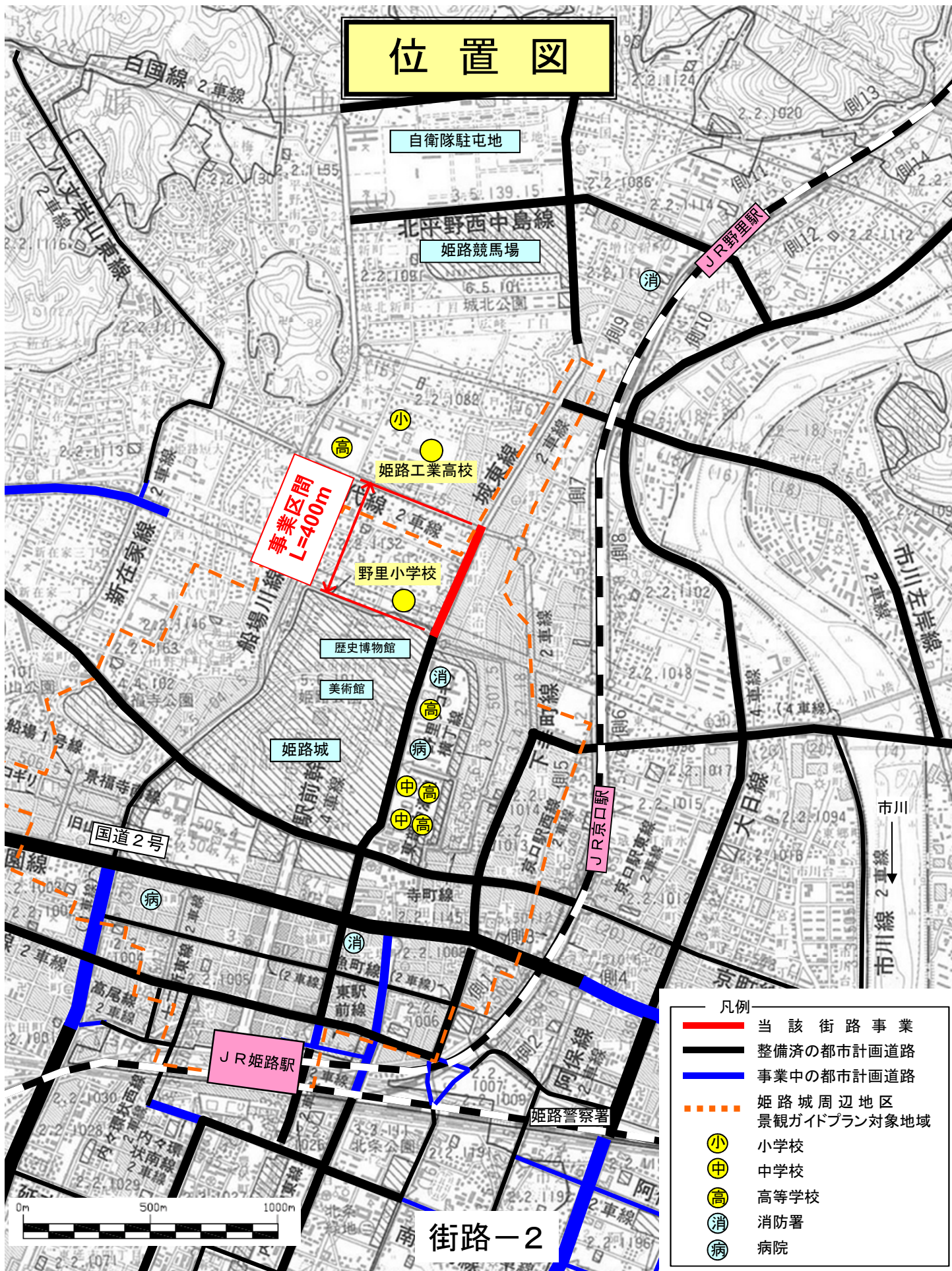
県土整備部

土木局 道路街路課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路担当参事 小谷 和弘 (街路班長 關 康夫)	内線	4474 (4480)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内用地補償費	着手予定年度	完了予定年度
街路事業	都市計画道路 城東線 (河間)	姫路市河間町	11 億円	7 億円	平成 27 年度	平成 32 年度
事業目的			事業内容			
<p>姫路駅前から姫路城東側を經由し、姫路城北側エリアを南北に結び、姫路城周辺地区の基盤となる幹線道路である。</p> <p>○交通安全性の向上 小学生や高校生が通学で利用しているが、歩道が未整備で路肩を通行しており非常に危険であるため、自転車歩行者道の整備により、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○都市防災機能の強化 緊急輸送道路を補完する道路として、大規模地震時等の防災空間を確保するため、拡幅整備と無電柱化を行う。</p>			<p>自転車歩行者道整備（両側） 延長：400m 幅員：2車線 両側自歩道4.0m 車道 6.0m（全幅 15.0m） ※現況：2車線（歩道なし） 現況交通量（H22年センサス） 自動車：16,713台/日 歩行者：361人/12h 自転車：1,283台/12h 〔負担割合 国 55%、県 22.5%、市 22.5%〕</p>			
評価視点	評価結果の説明					
(1) 必要性	<p>①沿道には、野里小学校や姫路工業高校など多く学校が立地しており、小学生や自転車通学の高校生が多数利用しているが、自動車交通が多い中、歩道がなく路肩を通行している状況である。</p> <p>②過去5年間に41件の交通事故が発生している。</p> <p>③市内を結ぶ10路線のバスが運行している。(291便/日)</p> <p>④道路の路肩に電柱があり、通行の阻害となっている。</p> <p>⑤震災時には、緊急輸送道路から避難所（小学校等）へのアクセス道路が必要となる。</p>					
(2) 有効性・効率性	<p>①自転車通行位置を明示することで、自転車と歩行者の通行場所が明確になり、自転車・歩行者双方の安全で円滑な走行空間を確保できる。</p> <p>②広幅員化と無電柱化により、建物火災や倒壊等が発生した際でも通行できる道路として、防災機能の強化を図ることができる。</p>					
○執行環境状況	<p>①地元連合自治会より早期事業着手の要望書が提出され、協力体制等事業執行環境が整っている。</p> <p>②昭和44年5月都市計画決定</p>					
(3) 環境適合性	<p>①当該箇所は、姫路城周辺地区景観ガイドプランで歴史的景観形成地区に指定されており、無電柱化や景観に配慮した舗装を採用することで、姫路城と調和した都市景観が形成される。</p> <p>②歩道舗装を透水性舗装とすることで、雨水が地盤へ浸透し、ヒートアイランドの抑制や雨水流出抑制など都市環境の改善に寄与する。</p>					
(4) 優先性	<p>①（都）城東線で残された未整備区間であり、交通量が多く、通学路と安全な交通空間の整備が早期に必要である。</p>					
【事後評価】 対象・対象外	事業に対する地域住民の意識などの調査を実施し、事後評価を行う。					

位置図



事業区間
L=400m

- 凡例
- 当該街路事業
 - 整備済の都市計画道路
 - 事業中の都市計画道路
 - - - 姫路城周辺地区
景観ガイドプラン対象地域
 - 小 小学校
 - 中 中学校
 - 高 高等学校
 - 消 消防署
 - 病 病院

街路-2

現況交通状況

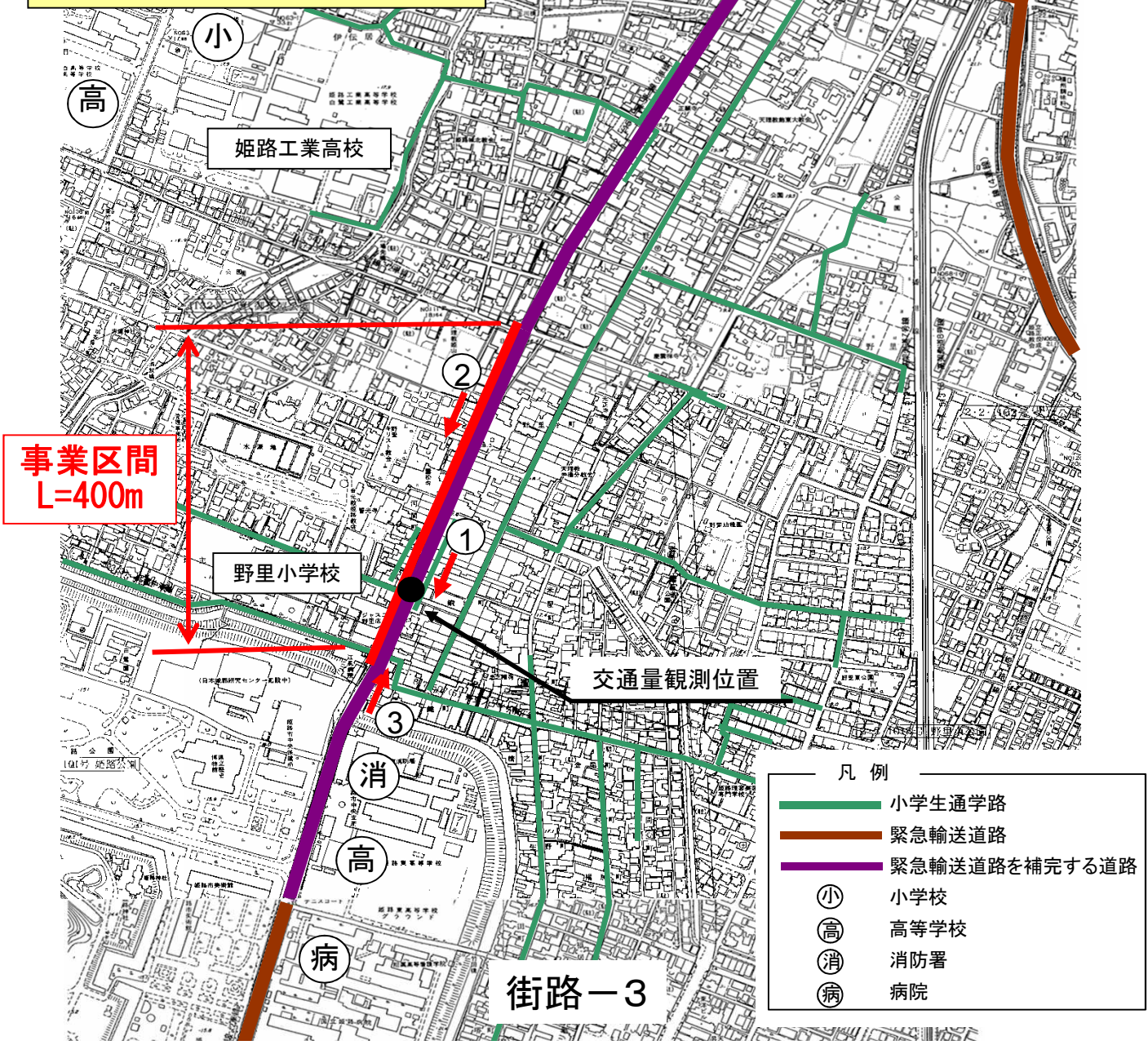
[必要性]

- ①交通が多く、特に自転車交通が多い
現況交通量(H22年センサス)

自動車	16,713台/日
歩行者	361人/12h
自転車	1,283台/12h

- ②交通事故が多く、過去5年間で41件発生

年度	人数
平成21年度	11
平成22年度	10
平成23年度	8
平成24年度	7
平成25年度	5



事業区間
L=400m

姫路工業高校

野里小学校

交通量観測位置

街路-3

凡例

- 小学生通学路
- 緊急輸送道路
- 緊急輸送道路を補完する道路
- ⊙ 小 小学校
- ⊙ 高 高等学校
- ⊙ 消 消防署
- ⊙ 病 病院

現況写真

① 事業区間南端付近



② 事業区間中間部付近

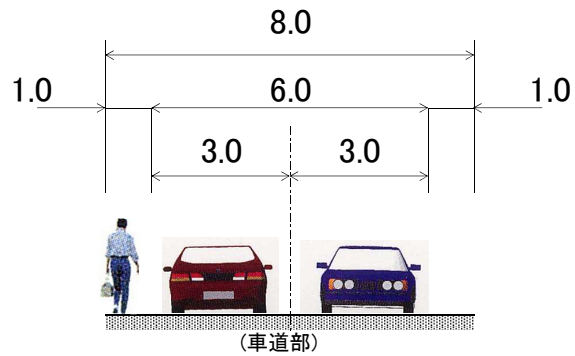


③ 事業区間南端から北を望む

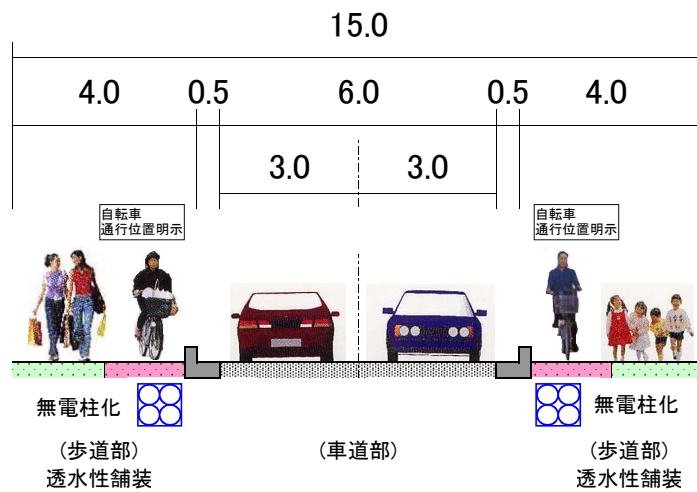


街路-4

現況断面図



計画断面図



スケジュール

	H27	H28	H29	H30	H31	H32
調査設計						
用地補償						
工事						

道路・街路事業の効果

対象事業：街路事業（都）城東線

（１）都市計画道路（城東線）整備による効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院（姫路医療センター）へのアクセス道路の整備 ・緊急輸送道路と地域の避難所（小学校）を結ぶ避難路の整備
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)		
		減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)		
	平時	救急医療体制の支援	○	・姫路医療センター（2次救急医療）へのアクセス性が向上
		交通安全対策	○	・自転車走行部の明示により、歩行者、自転車双方の安全を確保
②地域の活性化		地域間交流の促進	—	—
		中心市街地の活性化	○	・市中心部へのアクセス性が向上
		地域産業の活性化	—	—
		観光支援	○	・姫路城へのアクセス性が向上
		地域プロジェクト等支援	—	—
③円滑な交通体系の確保		公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○	・姫路駅へのアクセス性が向上（バス路線）
④地域の環境改善		沿道環境の改善 景観形成	○	・無電柱化や景観に配慮した舗装の採用

（２）地域からの要望状況等

要望状況等	地元連合自治会から、早期整備の要望書が提出されており、事業の執行環境は整っている。
-------	---